



ひとみ つうしん



視覚支援センター

(山形県立山形盲学校内)

令和5年6月発行 第1号

太陽の日差しや暖かさを感じ、鳥の声もよく聞こえる季節になりました。天気の良い日は、公園で思い切り体を動かして遊んだり、新緑の葉っぱや花を触ったりして楽しみたいです。

昨年度は、ひとみくらぶ（視覚に障がいのある乳幼児の保護者の集い）へご参加いただき、ありがとうございました。

さて、今年度は11月8日（水）にひとみくらぶを開催します。内容は、お子さんと一緒に自宅で簡単に作れる手作りのおもちゃについて、実際に作ったり遊んだりすることを計画しています。お父さん、お母さんだけの参加も大歓迎です。是非ご参加ください。また、視覚支援センターについてのさまざまな情報はホームページに掲載していますので、いつでもご覧ください。



『幼児期の今、しておきたいこと 一指の発達を促す』

—見えない・見えにくい子どもの育ちを支える—

どんどんできることが増える幼児期だからこそ、今、遊びの種類、量を増やすことをめざしましょう。見えない、見えにくいお子さんは、新しいことが苦手です。ですから、近くにいる大人と一緒に遊び、慣れるように工夫します。少しずつ気長に遊びを続け、たくさんの遊びと出会わせてあげてください。この時期の遊びは、小学校で学習する知識の土台と体をつくり、体力をつけます。

手や指は「発達の段階」を踏んで成長していきます。手は使えば使っただけ、使い方が上手になります。指ですることといえば、つかむ（はなす）、握る、つまむ、ひっかく、たたく、押す、さわる、さがす・・・たくさんあります。それらのことをうまくするためには、“自分の手に5本の指が



ある”ことがわかり、それぞれを別々に動かすことができるようになることが大切なのです。これらは、遊びながら手を使ううちに、わかり、できていくものです。そのための遊びをいくつかご紹介します。

（裏面へ）

☆じゃんけん☆



じゃんけん遊びで大切にしたいことは、それぞれの形です。見えない、見えにくいために手に力が入らず、指が曲がったチョキやパー、しっかり握られていないグーを出す子が多いです。目で見て真似る代わりに、遊びながら手を取って少しずつ教えてあげましょう。そうすれば私たちと同じようにグー、チョキ、パーができるようになります。じゃんけんのときは、出したものの名前を言うとお子さんにもわかりやすいですね。

☆ボール落とし☆

素材の異なるボールを入れ物に落とせば音がします。入れ物とボールの組み合わせが変われば、何通りもの音が出ます。中には、音が出ない物もあるでしょう。入れ物には、間口の広い物も狭い物もあります。どの入れ物にどのボールを落とすかで、手の使い方は異なります。音の違いで遊びが広がり、自分の好みの音を出すためには、何にどのボールを入れるといいのか覚えていくことでしょうか。特別な入れ物は必要ありません。家の中にある入れ物でいいのです。使った入れ物の名前や用途も教えてあげましょう。

☆積み木☆



目が見えない、見えにくいお子さんも積み木は楽しい遊びになります。初めは積み上げるよりも倒す方がおもしろいです。おうちの人が積み、お子さんが倒して、「倒れちゃった～！！」と言ってあげます。倒すおもしろさを知ったお子さんは、積み木の位置を自分で探り、期待感をもって積み木を押すでしょう。もしかして、自分に積み木が倒れてくることもあるでしょう。でも、「倒れてきたね～。でも大丈夫だよ！」と笑いかけましょう。そして、次は積み方。両手を使えば重ねることはできます。2個は簡単。3個からは難しいけれど、重ねたところを片手で押さえながら、もう一つを乗せれば、お子さんの方で積めます。そして・・・倒します！！

積み木遊びは形や位置関係の理解につながる、とってもいい遊びなのです。



「ひとみくらぶ」についてのお問い合わせは…

視覚支援センター（山形盲学校内）

TEL：023-672-4116

FAX：023-672-4117

担当：矢野 みわ（やの みわ）



心配なことがあれば、ご連絡ください。

